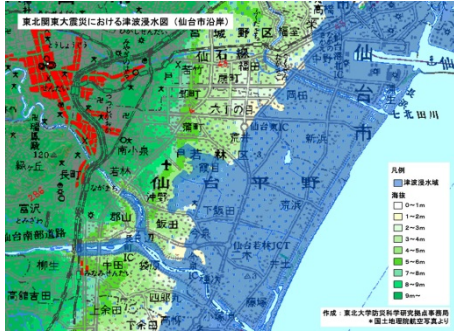


歴史資料・文化財対応

災害文化研究分野 蝦名裕一

災害時の文化財・史料保全(蝦名)



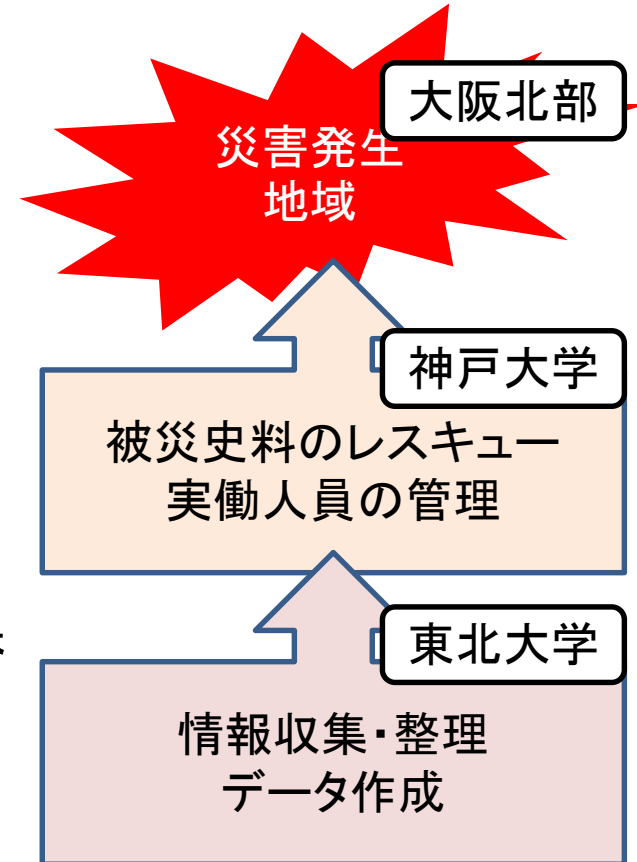
○東日本大震災時→災害直後、
独自に浸水マップを作成して被災
状況を確認
=現地での保全活動開始

○災害発生直後の現地の混乱状況、文化財対応は沈静化後→速やかに現地で調査ができるように事前情報の収集が重要
=被災地内外の組織が連携し情報収集・整理・データ作成。



東北大(災害研)は昨年より
神戸大学(人文学研究科)、人
間文化研究機構(国立歴博)と
協定を結び、“歴史文化史料保
全の大学・共同利用機関ネット
ワーク事業”を展開

=全国的な保全の拠点の一角



GoogleEarthを活用した文化財マップ



- 現在はGoogleEarthに文化財の所在地をマッピング
IRIDeSに集約される様々な災害情報を取得し、
レイヤーで重ねることで情報を整理。

構造と諸注意

①文化財の位置情報を記載

=当マップは**原則一般公開はしない**(被災地の盗難抑止)

→史料保存団体や連携先と共有。

②近隣の博物館・資料館をマッピング

→史料レスキューや緊急保管の拠点

③各種報道から文化財の被害情報を追加

④被害推定箇所を追加

(防災科学技術研究所 <http://crs.bosai.go.jp/DynamicCRS/index.html?appid=7f61007cfa949708cd5471bc6c52188>)

→被災が想定される文化財を抽出

⑤活断層マップ(中田 高・今泉俊文 [編], 2002,「活断層詳細デジタルマップ」, 東京大学出版会, DVD2枚, 解説書60pp.)

震源地点のマップ

→被害の広がりが懸念される箇所などの指摘

⑥陸地測量部地形図

→古い集落やかつての地形から今後の災害の懸念地域を抽出

○6月18日・19日にマップ作成。神戸大学へ送付。

→20日より史料ネット(神戸大学)が緊急体制へ。